

定期作況報告

令和元年 8 月
(8月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比2％）。日照時間は平年並であった（平年比115％）。

8月上旬：最高気温は平年より高く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は極めて多かった（平年比377％）。日照時間は平年並であった（平年比98％）。

8月中旬：最高気温は平年よりも極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。降水量は平年より少なかった（平年比38％）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比71％）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は、気温は平年並、降水量および日照時間はともに平年並であった。

気象表

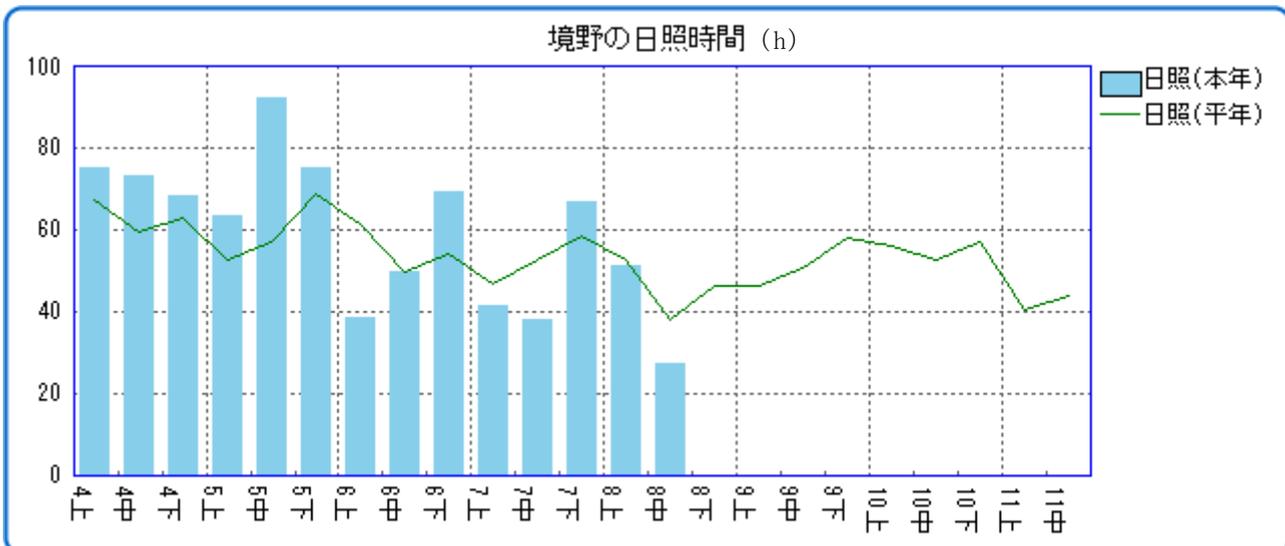
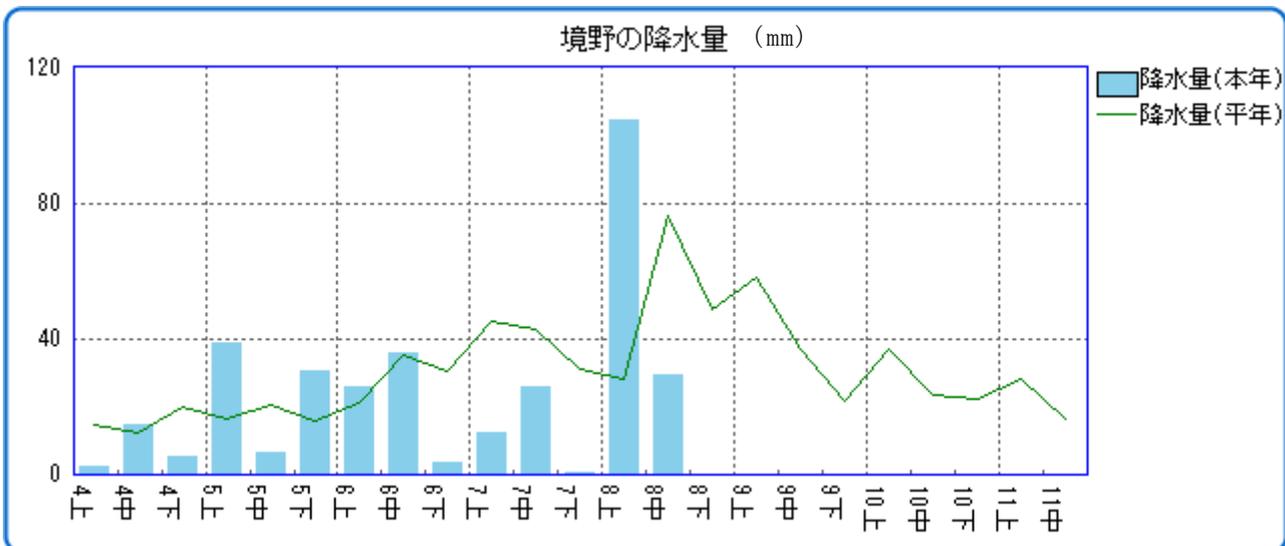
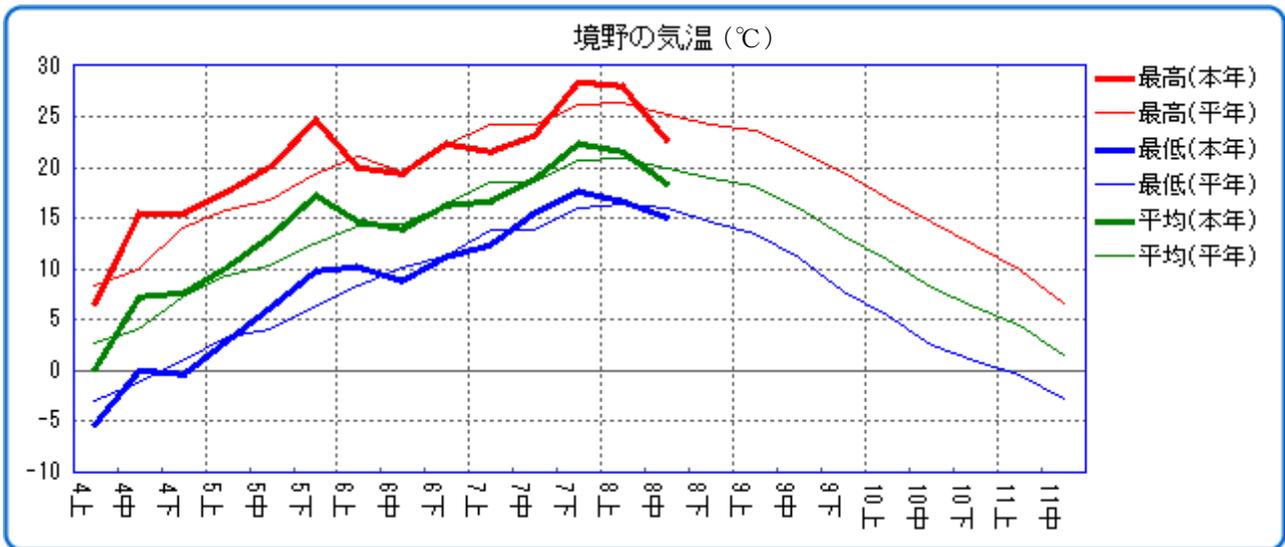
気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	22.4	20.6	1.8	28.3	26.2	2.1	17.6	16.0	1.6
8月 上旬	21.6	20.8	0.8	27.9	26.3	1.6	16.7	16.3	0.4
8月 中旬	18.3	20.0	-1.7	22.6	25.1	-2.5	15.0	16.0	-1.0

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	0.5	30.7	-30.2	66.9	58.4	8.5
8月 上旬	104.5	27.7	76.8	51.5	52.5	-1.0
8月 中旬	29.0	76.4	-47.4	27.1	38.2	-11.1

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：良

事由：成熟期は7月23日で平年より1日早かった。登熟は緩慢に進み（前報）、登熟期間は平年より6日長かった。子実重は平年比110%であった。リットル重は平年並で、千粒重は平年をやや上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	7.23	7.24	△1
子実重 (kg/10a)	790	718	72
同上平年比 (%)	110	100	10
リットル重 (g)	808	804	4
千粒重 (g)	40.8	39.4	1.4

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、30年（最凶）を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：やや良

事由：成熟期は平年並から1日早かった。出穂期が6日～7日早かったため、登熟期間は長くなった。「春よ恋」では倒伏がわずかに発生した。稈長は平年より短く、穂長は平年並で、穂数は平年並からやや多い（前報）。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.4	8.5	△1	8.7	8.7	0

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、29年（最凶）を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況：平年並

事 由：7月下旬の気温が高く、かつ降水量が少なかったため、草丈は平年より低く、開花期は平年より3日、抽糸期は平年より2日それぞれ早かった。葉数は平年並であった。

以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期 (月.日)	7.30	8.2	△3
抽糸期 (月.日)	7.30	8.1	△2
草丈(cm) (8月20日)	272.2	295.7	△23.5
葉数(枚) (8月20日)	15.1	14.9	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況：やや良

事 由：開花始は平年より3日早かった。主茎長、主茎節数は平年をやや下回っているが、分枝数と着莢数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.17	7.20	△3
主茎長(cm) (8月20日)	61.3	67.6	△6.3
主茎節数(枚) (8月20日)	10.0	11.0	△1.0
分枝数(本/株) (8月20日)	6.1	5.7	0.4
着莢数(莢/株) (8月20日)	82.4	77.1	5.3

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆

作況：平年並

事由：開花始は「サホロシヨウズ」で1日、「エリモシヨウズ」で2日早かった。両品種とも主茎節数はやや少ないが、主茎長と分枝数はほぼ平年並である。着莢数は「サホロシヨウズ」が多かったが、「エリモシヨウズ」ではやや少なかった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			きたろまん(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.23	7.24	△1	7.24	7.26	△2	7.24	7.25	△1
主茎長(cm) (8月20日)	73.6	70.5	3.1	62.5	62.9	△0.4	57.5	69.6	△12.3
主茎節数(枚) (8月20日)	12.3	13.4	△1.1	12.6	14.1	△1.5	11.7	13.4	△1.7
分枝数(本/株) (8月20日)	3.7	3.9	△0.2	3.7	3.7	0.0	3.3	2.9	0.4
着莢数(莢/株) (8月20日)	49.1	39.4	9.7	34.9	39.5	△4.6	48.6	33.7	14.9

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は、前5か年(平成26~30年)の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：草丈は平年を下回っているが、主茎節数、分枝数は平年をやや上回っている。着莢数は平年をわずかに下回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	34.8	43.3	△8.5
主茎節数(枚) (8月20日)	5.9	5.3	0.6
分枝数(本/株) (8月20日)	5.5	4.8	0.7
着莢数(莢/株) (8月20日)	19.7	21.1	△1.4

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況： やや良

事 由：前報の通り、生育は平年より早い。地上部の伸長停止は早く、8月20日時点の莖長は各品種とも平年より短い。早生種の「男爵薯」では7月下旬に莖葉黄変が始まり、8月20日時点で黄変期に達している（平年より4日程度早い）。塊茎肥大開始も平年より早く、上いも重、でん粉価とも平年を上回っている。晩生種の「コナフブキ」「コナユタカ」は、上いも重は平年より多いものの、8月上旬の降水量が多かった影響で、でん粉価は平年並にとどまっている。また、「コナフブキ」は地上部の倒伏が著しいことから、今後の塊茎肥大の鈍化が予想される。以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
莖長(cm) (8月20日)	43	51	△8	67	79	△12	79	91	△12
上いも重 (kg/10a) (8月20日)	5146	4482	664	4443	3847	596	3994	3737	257
でん粉価 (%) (8月20日)	16.7	15.4	1.3	21.1	21.2	△0.1	19.0	19.2	△0.2

注) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊）、30年（最凶）を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況： 平年並

事 由：7月下旬まで続いた乾燥傾向は、8月上旬にまとまった降雨があったことで解消された。草丈は平年より1.9~2.0cm低く、生葉数は平年より0.2~1.2枚少ないが、莖葉重は平年並である。根重は、移植は平年並みか少ないが、直播は平年を上回っている。以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (8月20日)	56.3	58.3	△ 2.0	56.0	57.9	△ 1.9	59.3	60.1	△ 0.8
生葉数(枚) (8月20日)	23.0	23.2	△ 0.2	25.0	26.2	△ 1.2	21.1	21.8	△ 0.7
莖葉重 (g/個体) (8月20日)	788	743	45	798	847	△ 49	738	730	8
根重 (g/個体) (8月20日)	765	761	4	697	782	△ 85	626	531	95
根周(cm) (8月20日)	33.0	32.7	0.3	31.4	34.2	△ 2.8	29.3	28.0	1.3

注1) 平年値は前7か年中、26年（最豊）、平成28年（最凶）を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由: 2番草収穫は平年より9日早い7月30日に行った。収穫時の節間伸長程度は平年並であったが、2番草生育期間の降水量が少なく推移したため、草丈は平年に比べてやや低く、2番草の乾物収量は平年比92%とやや少なかった。1番草と2番草の合計乾物収量は平年比81%と少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	2番草	7.30	8.8	△9
節間伸長程度	2番草	4.3	4.3	0.0
病害罹病程度	2番草	2.5	2.3	0.2
草丈(cm)	2番草	56	63	△7
生草収量(kg/10a)	2番草	733	896	△163
乾物率(%)	2番草	26.8	24.5	2.3
乾物収量(kg/10a)	2番草	197	213	△16
同上平年比(%)	2番草	92	100	△8
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	656	806	△150
同上平年比(%)	1+2番草	81	100	△19

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況:やや不良

事由: 倒伏期は、「オホーツク222」では平年より7日早く、「北もみじ2000」では5日早かった。球肥大期以降の気温は高めに推移したが、降水量が極めて少なかったため球肥大は両品種とも緩慢になり、一球重は平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
肥大期(月.日)	7.8	7.12	△4	7.14	7.18	△4
倒伏期(月.日)	7.23	7.30	△7	7.31	8.5	△5
根切日(月.日)	8.8	8.13	△5	8.16	8.19	△3
一球重(g)(8月20日)	241.1	265.4	△24.3	221.1	232.4	△11.3

注) 平年値は前7か年中、平成25年(最凶)、28年(最豊)を除く5か年の平均。